

ブドウ「シャインマスカット」の果粒肥大を促進させる生育条件・管理方法			
<p>[要約]</p> <p>ブドウ「シャインマスカット」は、着房位置の葉が大きく、開花期の副梢葉枚数が多い新梢や、新梢先端側の花穂に優先して着果させると果粒肥大が良い。開花期の副梢葉枚数が中程度（7枚）以上の新梢では、摘心後発生する副副梢を適宜摘除すると果粒重が大きくなる。</p>			
茨城県農業総合センター園芸研究所	平成24年度	成果区分	技術情報

### 1. 背景・ねらい

本県において、ブドウ新品種「シャインマスカット」は一粒重 15g 以上を高品質果実の目標としている。そこで、高品質な「シャインマスカット」生産のために、果粒が肥大する条件を明らかにする。

### 2. 成果の内容・特徴

- 1) 開花期における着房節の葉身長が大きいと、果粒重が大きくなる（図1）。
- 2) 新梢を着房節の先5枚を残して摘心し、果房より先端側の副梢を1節当たり1枚、基部側の副梢を1節当たり5枚で管理した場合、開花期における果房より基部側の副梢枚数が少ないと、果粒重が小さくなることが多い（図2）。
- 3) 着房節3節目の新梢と比較して、着房節が5節目の新梢では着房節の葉身長が大きく、開花期の副梢枚数が多い（図1、2）。着房節が先端側になるに従って果粒重が大きくなる（図3）。
- 4) 開花期の副梢枚数が中程度～多い新梢では、新梢や副梢を摘心した後発生する副副梢を適宜摘除すると、副副梢を放任した場合と比較して果粒重が大きくなる（図4）。副副梢を放任すると開花期の副梢枚数による果粒肥大の差がなくなる（図4）。

### 3. 成果の活用面・留意点

- 1) 本試験は、着房数を 2.5 房/m<sup>2</sup>、着粒数を 45～50 粒/房の管理である。「シャインマスカット」では 1.8t/10a が収量の目安である。葉身長が大きく、副梢枚数が多く、形のよい花穂を優先して残し、生育の悪い新梢の花穂は早めに摘除する。
- 2) 1 新梢に 2 つ以上花穂が着生した場合、基部から離れた花穂を残して 1 新梢 1 花穂に整理する。ただし、花穂の形が極端に悪い場合は、花穂の形の良方を優先して残す。

#### 4. 具体的データ

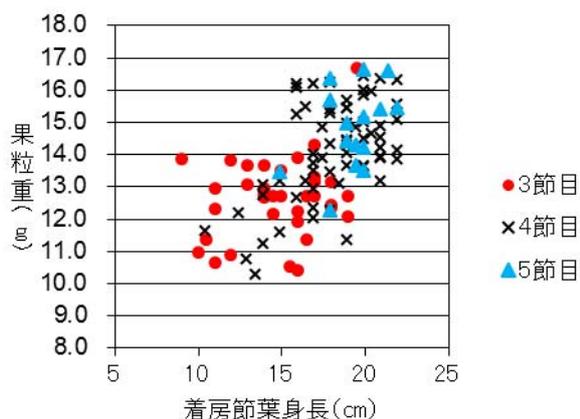


図1 「シャインマスカット」 着房節葉身長と果粒重 (H22~24)

凡例は着房節を示す。供試樹は無加温パイプハウス内根域制限栽培・短梢剪定平行整枝(7~9年生)

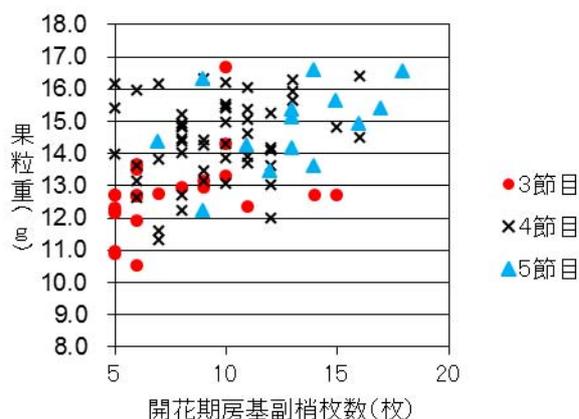


図2 「シャインマスカット」 開花期房基副梢枚数と果粒重 (H22~24)

凡例は着房節を示す。供試樹は無加温パイプハウス内根域制限栽培・短梢剪定平行整枝(7~9年生)。新梢は房先5枚で摘心し、着房位置より基部の副梢を1節当たり5枚、着房位置より先の副梢を1節当たり1枚で管理

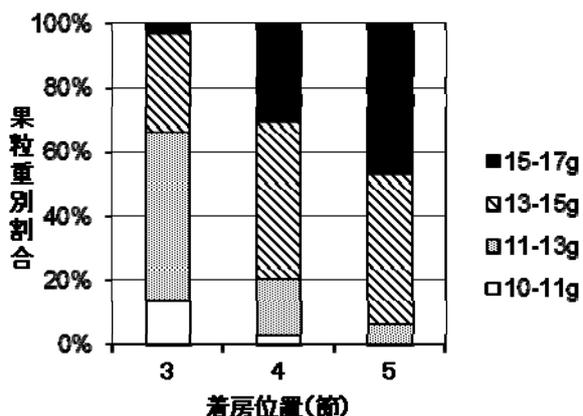


図3 「シャインマスカット」 着房節と果粒重 (H22~24)

供試樹は無加温パイプハウス内根域制限栽培・短梢剪定平行整枝(7~9年生)。データ数は着房位置3節目が36房、4節目が63房、5節目が15房

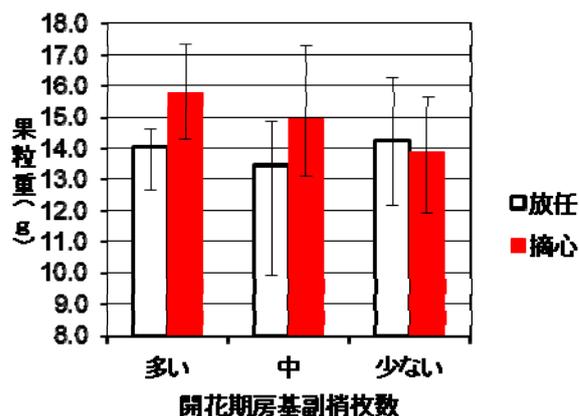


図4 「シャインマスカット」の開花期房基副梢枚数および新梢管理方法と果粒重 (H23)

供試樹はトンネル栽培・短梢剪定平行整枝14年生。開花期の房基部副梢枚数の平均は、多い:14枚、中:7枚、少ない:2枚であった。図2と同様に摘心を行い、摘心区は発生した副副梢を適宜除去し、放任区では開花期以降8月まで副副梢を放任した。上部の縦棒は最大値・最小値の幅を示す。データ数は各区8房

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

ブドウ「シャインマスカット」高品質安定生産技術の開発・平成21~23年度・果樹研究室

大粒で外観・食味が優れる「シャインマスカット」栽培技術の確立・平成24~26年度・果樹研究室